



みなみ

発行日 平成28年5月31日



No. 3

そったくどうじ 『啐啄同時』 そしてひとつの言葉が！

校長 宮居 伝

「啐啄同時（啐啄同機とも言う）」 この言葉を聞かれたり、大切にされたりしている方も多いのではないのでしょうか。「啐」は「鶏の卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音」、「啄」は「母鶏が殻を外からつつき破ること」で、「啐啄同時」とは、この「啐」と「啄」の息がぴたりとあうことを表しています。

ところで、以前、「滋賀教育（社団法人滋賀県教育会発行・第696号）」という新聞に、ある先生からの次のような投稿が書かれてありました。

市民からの電話

「バスの中における態度が悪い」というお叱りの電話を頂いた。電話の向こうからは、お茶会か句会の余韻を楽しんでいたのに、小学生がそれを壊すような態度で困るという意味のお話だった。かなり立腹されている事情は理解できた。心当たりがある話であった。

早速、全校児童に電話の内容を伝えたところすぐに、「私達だと思う」と申し出たグループがあった。その日は、友達と特別に話が弾んだ。迷惑をかけていることに気づいてはいたが、互いに注意をすることもなかったとのこと。反省の気持ちも伝わってきた。

「迷惑をかけた分を、よいことをして取り返すようにします。」

この言葉を大切にして、通学の態度をよくするための努力を約束した。その後、しばらくは、バス

乗車態度については、お叱りのお電話を頂くことはなかった。しっかり反省し行動に表したからであろう。

後日、このことについて父親から聞いた話がある。お叱りの電話について子どもが「迷惑をかけたら、電話がすぐにかかってくる。反対に、まじめにしている時は、いいことをしているという電話はない。」と不満そうに述べたという。父親は、「今のように、よいことを続けていると、三年後、あるいは、もっと後に、ほめてもらえる電話が、学校にかかってくるかもしれない。よいことはめだたないんだよ」と、答えられたという。自分たちの行動が社会に認められるには長い時間が必要であることを学んだ子ども達であった。

自分の行動を見直す機会を頂いた市民の方からの電話であった。

このお父さんの一言に、私は思わず頭がさがりました。まさしく『啐啄同時』です。子どもの言葉に、もしもお父さんが、社会批判や指導に対する批判をされたりしたとしたら、せつかくの子どもの学びの機会は失われ、違った価値観の学びになったことでしょうか。非難や批判だけの言葉が、子どもの成長にプラスにならないことは、多くの方が感じ認めているところではないのでしょうか。

私の大切にしたいことのひとつに、5月の学校だよりでも書かせていただきました『環境は人をつくる』があります。環境とは、単に「もの」だけではなく、「子どもに関わる人」も重要です。その関わる人の発するひとことの重み、そして、逃したらまたと得がたい好機を大切にしなければと、改めて感じた次第です。

6月行事予定

- 1日(水) 聴力検査2年
- 3日(金) 新体力テスト
聴力検査1年
- 4日(土) PTA資源回収
- 6日(月) 体重測定(5・6年)
委員会活動(5・6年)
- 7日(火) 体重測定3・4年
- 8日(水) 全校猪子山活動*予備日10日
- 10日(金) プール開き
体重測定(1・2年)



- 20日(月) クラブ活動(4~6年)
- 22日(水) 音楽集会(保護者参観)
- 23日(木) 音楽集会(祖父母参観)
教育相談日Ⅰ
- 24日(金) 4年校外学習
- 27日(月) 学級諸費集金日
クラブ活動(4~6年)
- 28日(火) 教育相談日Ⅱ
- 29日(水) 避難訓練(不審者対応)
- 30日(木) 3年校外学習

7月主な行事予定

- 6日(水) 地区別児童会
- 8日(金) PTA地区別懇談会
- 15日(金) 期末懇談会
PTA救急救命講習会
- 19日(火) 給食終了
- 20日(水) 1学期終業式
- 26日(火) 東近江市水泳記録会
- 27日(水) 滋賀県水泳記録会